

第 2 号議案 平成 29 年度決算報告

決算概要

平成 29 年度は、前年度までの大規模イベントの開催が一段落し、収入及び支出とも大きく減少したものの、平成 26 年度から継続的に実施している赤字解消の様々な方策の効果が、結実した年となった。会員数の減少による会費収入の縮小が続いているが、運営費を補う会員からの寄付金等の増加と減価償却費の減少によって、念願の黒字決算が実現することとなった。

経常収益合計 97,289 千円は、対前年度比で 29,017 千円、22.9%減少しているが、経常費用合計も 95,558 千円となり、38,757 千円、28.8%減少した結果、当期経常増減額（経常利益）は、1,730 千円の黒字となった。最終損益である当期一般正味財産増減額（当期利益）も同額であり、改善額は対前年度比で 9,740 千円となった。

当会の収益の推移

当会の経常収益合計額は、97,289 千円となり、前年度までの 110 周年記念事業等の諸行事の終了に伴う指定寄付金の大幅な減少により、対前年度比で 29,017 千円、22.9%減少した。

	収益の5年間の推移				
	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
会費・入会金	55,625	56,587	56,621	58,047	56,833
事業収益	18,018	13,383	13,248	12,786	12,304
寄付金等	17,187	23,492	25,357	34,501	27,496
110周年記念募金寄付等	-	18,230	8,420	8,453	-
ネパール地震救援募金	-	5,893	22,051	-	-
その他収入	6,458	8,720	5,773	5,547	7,833
	97,289	126,306	131,472	119,336	104,467

会費・入会金については、準会員制度の運用が 2 年目となり、準会員の増加は 92 名と 3 桁に迫る水準であった。しかし、正会員については、退会者と物故者が入会者を大幅に上回り、会員数の純減（増加数と減少数を差引）は 94 名となった。このため、会員と準会員の受取会費の合計額は、52,205 千円となり、対前年度比で 0.5%の微減、会費と入会金の合計額についても 1.7%の減少となった。上記 5 年間の推移表でも、会費と入会金の合計金額は減少を続けている。

事業収益は、主に年次晩餐会の参加料収入等であるが、18,018 千円となり、対前年度比で 34.6%増加している。これは「財務諸表に対する注記 2. 表示方法の変更(1)」に記載の通り、登山講習会収益を当年度より雑収益から事業収益へ表示変更していることによるものであり、これを勘案するとほぼ同額で推移している。

寄付金等については、当年度は会員寄付金、主に永年会員からの寄付(162 名、2,817 千円)と支部での募金等による寄付金が増加したものの、こども夢基金からの親子登山サイト構築の助成金が減少した結果として、当年度は前年度比 6,305 千円、26.9%の減少となった。

110 周年記念募金の寄付金及びネパール地震救援募金は、前年度で終了したものである。

その他収入の内訳は、支部開催行事参加費や保険取扱手数料収入等雑多なものであるが、前述の表示変更を加味すると順調に増加している。

収入の5年間推移



事業費と管理費の推移

事業費については、総額で 91,378 千円となり、対前年度比 38,746 千円、29.7%の減少となっているが、前年度までであった 110 周年記念事業とネパール地震救援事業費の減少がその要因である。

「財務諸表に対する注記 2. 表示方法の変更(2)」に記載の通り、事業費については当年度より「公益法人会計基準運用指針」に例示された科目により表示しているが、事業ごとの成果を明らかにするため、ここでは従来の小事業区分に従って説明する。

単位：千円)

事業区分	平成29年度	平成28年度
出版事業費	12,893	13,700
図書管理事業費	5,791	5,873
支部事業費	23,926	21,193
高尾の森づくり事業費	2,521	5,642
YouthC lub事業費	2,118	1,711
山岳研究所等事業費	6,855	9,001
家族登山普及事業費	887	9,388
110周年記念事業費	0	24,032
ネパール地震救援事業費	0	5,893
その他の事業費	16,416	12,624
事業管理費	19,967	21,064
事業費計	91,379	130,125
管理費	4,179	4,190
事業費・管理費合計	95,558	134,316

出版事業費は、12,893千円となり、対前年度比807千円、5.8%の減少となった。この要因は印刷コストと「山」の発送業者変更による支払手数料（発送費用）の削減によるものである。

支部事業費は、各支部に交付した運営交付金及び支部事業助成金6,460千円と新入会員獲得奨励金748千円、特別事業助成金等800千円を原資の一部とする支部の活動費用である。当年度は、23,926千円となり、対前年度比2,732千円、12.8%の増加となった。この要因は、広島支部での遭難事故に対する弔慰金2,250千円を広島支部で支出したこと等によっている。

高尾の森づくり事業費は2,521千円となったが、外部からの助成金（受取法人寄付金）による海外植樹事業が前年度において終了したので、対前年度比3,120千円、55.3%の減少となった。

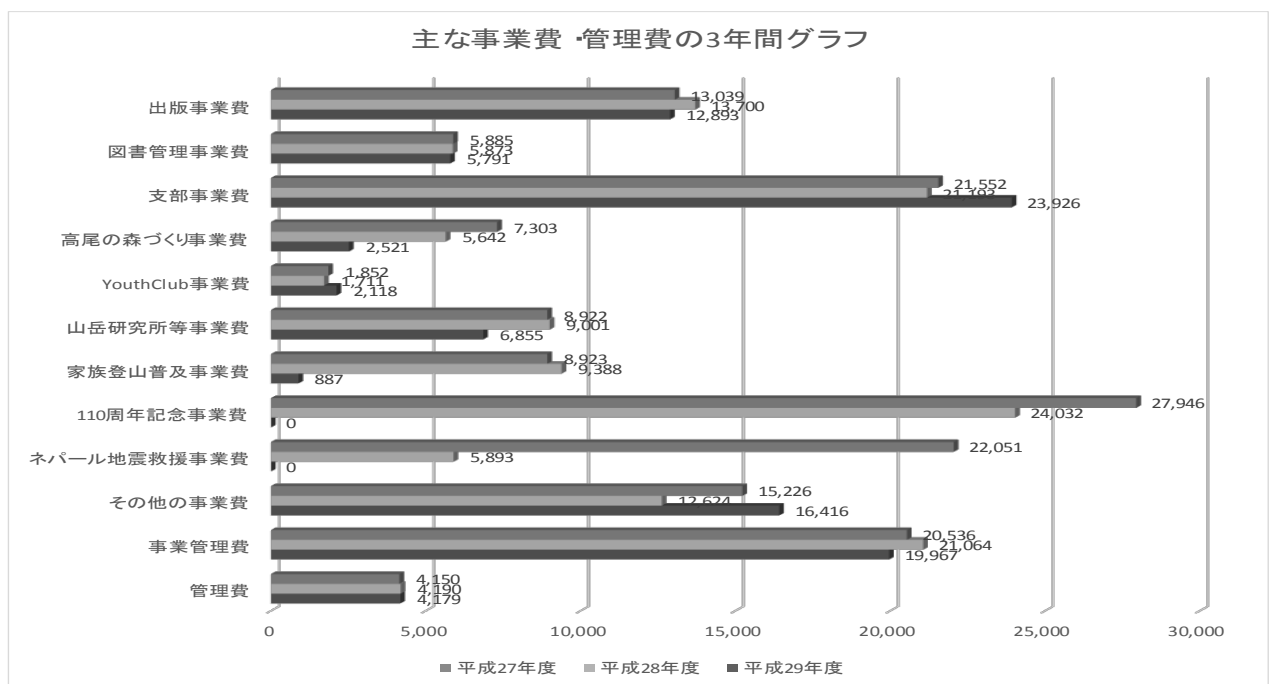
山岳研究所等事業費（上高地山研の維持費用、ミニ水力発電事業費含む）は、当年度は6,855千円、前年度比2,145千円、23.8%の減少となった。これは建物の一部の減価償却が終了したことに伴い、建物減価償却費が2,527千円減少したことが原因である。上高地山岳研究所は、利用者とその収入は増加しているものの、建物の経年劣化による修繕費用の増加が続いている。当年度には給湯設備を更新して413千円を固定資産に計上した。

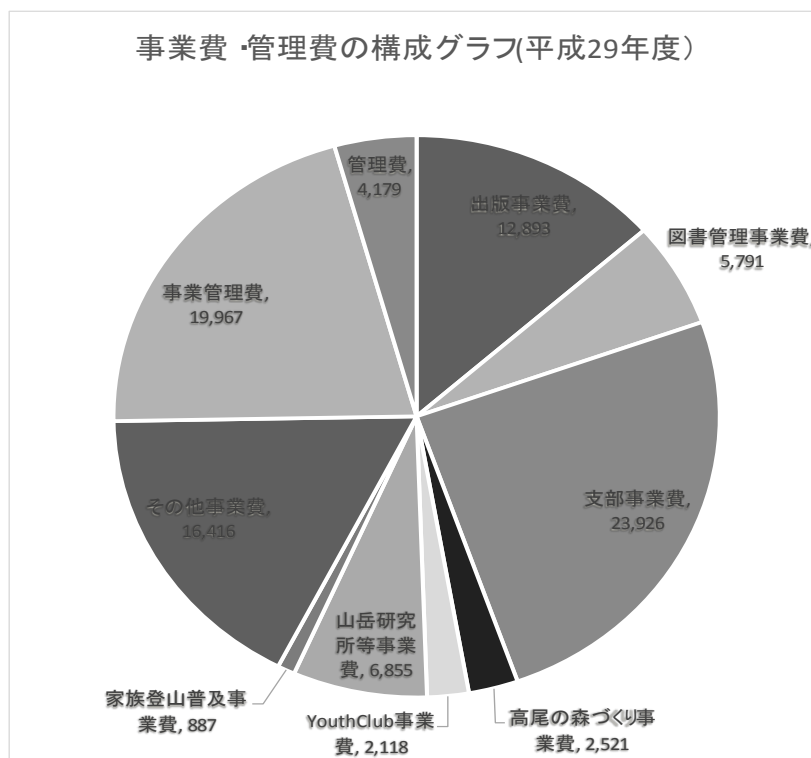
家族登山普及事業費は887千円と、前年度から8,501千円、90.5%と大幅に減少した。これは前年度までの子どもゆめ基金からの助成金による「親子で楽しむ山登り」ウェブサイトの構築が一段落したことによるものである。

その他の事業費は、年次晩餐会の参加費によって賄われる開催費用等が主な支出であるが、当年度の参加者が増加（48名増の519名）したことにより支出も増加している。その他の事業費全体では16,416千円となり、対前年度3,792千円、30.0%の増加となった。

事業管理費及び管理費（間接費）については、本部事務所の維持費用及び人件費、通信費、支払手数料等であるが、経費節減に努めた結果、1,108千円、4.3%の減少となった。

なお、前年度にあった110周年記念事業費の主な内訳科目は旅費交通費8,394千円、通信運搬費6,101千円、消耗品費2,241千円、保険料2,903千円、雑費2,807千円であり、平成29年度は同額が各科目から減少している。





※上図からは、110周年記念事業費とネパール地震救援事業費を除いている。

貸借対照表の説明

平成30年3月末現在の貸借対照表において、**現金預金**は49,042千円となり、前年度比で11,191千円、29.5%増加し、**流動資産合計**も54,221千円となって、6,491千円、13.6%増加している。この主な要因は、運営費を補う会員からの寄付金等の増加と経費節減による効果が現れたものである。

特定資産である**海外登山基金**は、今後の海外登山等の助成金及び120周年記念事業の海外登山の助成金を対象として留保された資金である。当年度は三国学生交流登山のために222千円を取り崩した結果、当年度末残額は10,537千円となった。

長期計画準備金は、上高地山岳研究所の修繕費用又は再建費用として留保している預金であるが、当年度は給湯設備の更新のために413千円を取り崩して、29,576千円の残高となった。

施設整備特定資産は、本部事務所の設備、備品等の更新または修繕に備えるために、故人から寄贈された3,000千円を原資として計上された。当年度は集会室等の照明設備の更新に係る支出額740千円を取り崩して、2,259千円の残高となった。

以上を含めての結果、**特定資産合計**は、74,743千円となり、前年度比2.5%増加した。

その他固定資産の減少は、主に減価償却によるものである。この結果、**固定資産合計**は、対前年度比で1,209千円、0.5%減少し229,594千円となり、**資産合計**は283,815千円となって、5,282千円、1.9%増加することとなった。

負債については、源泉所得税や次年度支出等の預り金が前年度比で1,111千円増加し2,268千円となり、**負債合計**は前年度比で1,447千円、16.2%増加し10,335千円となった。

以上の結果、当年度末の**正味財産合計額**は、273,480千円となり、前年度比で3,834千円、1.4%の増加となった。